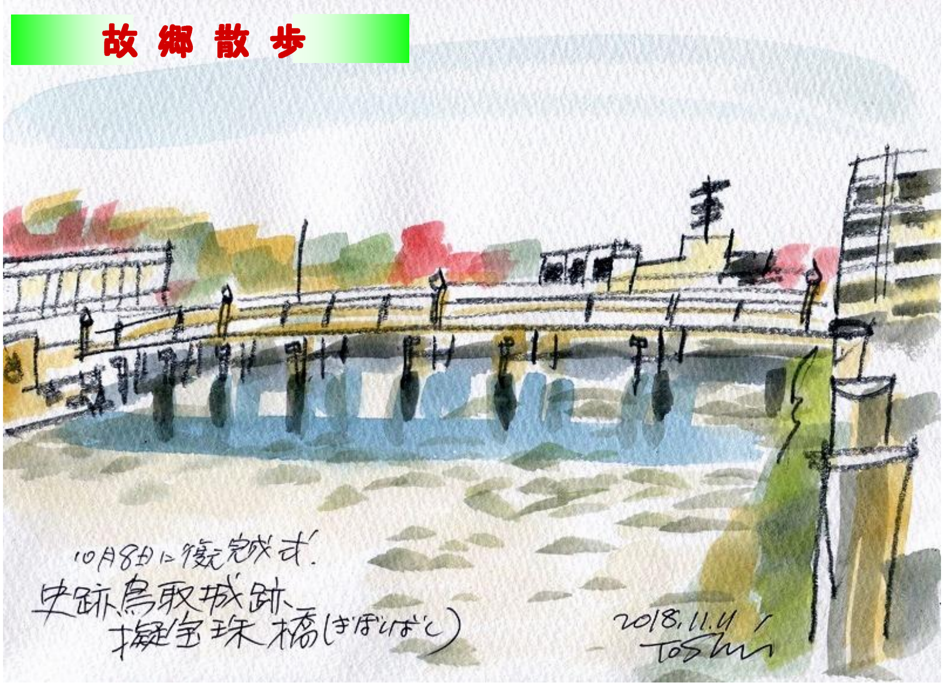
京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東雲会京阪神支部会報●第２２号
事務局 中原修市(山脈 20 回)
大阪市北区本庄東 2-7-5

故 郷 散 歩



タイムマシーン

帰省して散策する場所は久松山のお堀端周辺です。
1965 年に作られていたコンクリートの橋を撤去し、鳥取城正門にあった擬宝珠橋が昨年 10 月に復元されました。この場所は参勤交代の起点になった場所で、さらに太鼓御門や大手登城路の整備が進んでいます。
小学校の頃には久松公園にはラジオ塔が立っており、猿の檻もありました。
この一帯は、幼い頃にワープできるドラえもんの「どこでもドア」です。
（文・絵　岡田俊一 山脈 12 回）

今年度総会は大阪キャッスルホテルで!

総会・懇親会へのお誘い　京阪神東雲会の皆様、今年度の会場は 3 年ぶりに大阪キャッスルホテルでの開催となります。本年度は、第 69 回目の総会及び懇親会となりますが、近年総会出席者数が頭打ちとなって来ています。会員の皆様には、ぜひ同窓会総会にご参加をいただき、母校鳥取東高等学校での 3 年間の色々な思い出を同期、先輩、後輩と共有して下さい。ご参加いただけましたら一瞬でタイムスリップして若かった高校時代が蘇ります。少しでも同窓会に関心のございます会員様には、ぜひ同期の方にお声掛けをしていただきまして、揃ってご参加いただきますようお待ちしています。

●事務局長
中原修市 山脈 20 回

左写真は平成 30 年度総会
（平成 30 年 11 月 17 日）
於:中之島 LOVE CENTRAL
背景は国指定重要文化財の
大阪市中央公会堂

返信はがきの近況報告から（平成30年度）

柏葉

★長年お世話になりました。私は今年 97 歳になり起居ままならぬ状態です。（12 長澤壽一）★現在、姫路医療センターへ通療中(隔日)悪しからず。勝手ながら欠席させて頂きます。（18 山根昭一郎）★会報を楽しく拝見しております。私はお蔭様で元気に過ごしております。鳥取は長寿県、そこで育った事を喜んでおります。知人の出席がないので、会は残念乍ら欠席します。（18 佐々尾昭）★父は足腰がめっきり弱り、遠出が困難な状況です。誠に残念ですが、ご盛会をお祈りしております。（22 山崎吾郎・長女）★秋が近づくと昭和 21 年に第 1 回米子鳥取間駅伝に出場し優勝したことを思い出します。（22 藤田忠雄）★年相応のことですが、難聴で話のやりとりが殆ど出来ません。（23 村山龍夫）

山脈

★終の住み処として、高齢者マンション入居を選択しました。（2 金谷発清）★身体が思うように動かなくなり残念ですが欠席させていただきます。同窓会名簿のおしらせがないですが、作業が大変ですね。（3 山崎圭子）★年一回の同期会、西日本豪雨で中止しました（7/6）今秋に集まればと思っています。60 才定年后 24 年、現在もサラリーマンしています。84 才で元気ですが、そろそろ体力・知力が劣化していますので引退かと思ってます。（4 小路一完）★現役時代「企業戦士」として「職場があって家庭」で、家に帰って寝るだけで健康管理など考えもしなかった結果、次々と疾病が指摘され、これが「才子多病」と思いながら治療に追われています。（4 中尾英昭）★東高時代が一番懐かしく思います。（4 若松静子）★昨年まで続いた湯村温泉での中学同窓会、今年で終了しました。（5 井上治）★山脈 5 回の皆様お元気でしょうか。80 才も 3 つ過ぎましたが、何とか元気で夫婦旅行を続けています。春は信州・海野宿を歩き、この秋 10 月は木曽・天滝村、11 月は日光・鬼怒川温泉の紅葉を楽しむ予定です。（5 松下泰治）★今年 1 月に大腸の一部を切除しました。東京オリンピック観戦を楽しみにリハビリ中です。与えられた余生、大切にしたいと願っております。4km/日のウォーキングも再開しました。（5 森田明弘）★皆さんの近況報告を拝見して、遠い昔を懐かしくふり返りました。（6 稲墻崇子）★当地尼崎市は健康促進として 65 歳以上対象のシニアウォーキング「100 万歩チャレンジ」運動を展開しており 70 歳で自由人となってから参加して 10 年半経過した。幸い健康でもあり 2500 万歩（地球一周の 1/3）を達成し続行している。ウォーキングは認知症予防にもなるそうで、その御陰か自分では未だその症状は出てないと思っているのだが…。但し頭が良くなる節は全く無い事は自覚している。（6 久永浩）★運動能力の低下が激しく、ゴルフプレーが楽しめなくなりました。気持ちだけはと思っているのですが…。（7 竹内正志）★（眼科）白内障。医師より運転免許の更新をしないように言われ「ショック」でした。（7 丹松克男）★HbA1c は 6.7 になりました。筋トレの効果が出たかなと思っています。（8 三浦久志）★あちこちと病院のお世話になりながらも、朝は公園でのラヂオ体操に参加し、健康第一でと過ごしています。転ばぬようにと、急がず、あわてずを心しています。（10 前田佳子）★右膝をバイクのハンドルにぶっつけ通院中です。免許証は返納しました。（10 岩崎素彦）★元気です。残された時間を大切に生きています。（10 一軸さゆり）★生活習慣病と長年対峙していますが、妻の毎日作る食事のお陰で安定保持し元気に楽しく過ごしております。（10 滝和男）★週一回介護施設勤務してます。（10 中村恵子）★体力の衰えを気力で補っています。95 年前に祖父が技官として架橋に関与した滋賀三重県境のつり橋跡を訪ね、考古学者の気分で検証しました。地図をながめては次の行き先を考えるのが楽しみです。（10 西尾康弘）★町内会の副会長を何とか努めています。元気です。（10 西村律男）★皆さん台風 21 号の被害はなかったですか。今まで経験したことのない様な大型台風でしたね。八月の猛烈な暑さ、大雨、地震と自然には勝てないものの、地球温暖化は我々が導いたのかもと考えさせられます。又、高齢者社会に自分の年も重ね、いかに有意義に生活出来るか、認知症の問題等ボランティア活動をしながら色々と思い悩む日々ですが嬉しい事に女性の同窓会の旅行 23 年 30 回誰一人欠ける事なく続いてます。おしゃべりで若返り？姥桜満開です。まだ続く様です。頑張りましょう。（10 西脇紀恵）★性懲りも無くヨタヨタ走っています。フルマラソンを完走すると、一文を書き上げたのと同じような達成感があり、ウルトラマラソンを完走すると「もう死んでもよい」と思うほどの高揚感があります。当面の目標はフル完走 50 回（あと 1 回）、80 歳でのフル完走です。たあい無い目標ですが。（10 橋本巌）★この年になって、自治会の仕事で忙しい日々を送っています。（11 澤田和子）★鳥取を離れて 60 年、大阪をスタート、転々勤務地を変わり、現在の京都で 50 年、早いものです。今は本人と妻と母（105 才）の 3 人暮らし、環境良し、体調良し、資金不足気味。（11 茂井洋美）★京都に嫁いで 50 年、昨年吉方の実家が処分され、何となく心の中にポッカリと穴が…。そんな中、この度の京阪神支部会報第 21 号には心ゆくまで癒された。まず冒頭の岡田氏の「若桜鉄道スケッチ」に目を奪われた。5 年前に訪れた主人の父と私の父の故郷の懐かしい光景！頁をめくれば川崎氏の「夢つれづれ」にうんうんと首肯きながら当時のすべてを思

い浮かべる事ができ、嬉しい楽しいひとときでした。有難うございました。（11 盛田和子）★秋は特に行事が多く、4 つの合唱団の指導、指揮をしていますので、残念ながら欠席させて頂きます。（11 田附和子）★相変わらずテニスと将棋を楽しんでます。（12 堂坂明宏）★何とか元気にしておりますが、趣味のコーラスの合唱祭を控えており欠席させて頂きます。（12 田島多江子）★75 才を迎え、賑やかなシンボル、鳥取市をねり歩いた事を思い出します。（13 佐々木冴子）★総会の案内を見ると懐かしい。盛会をお祈り致します。（13 真田譲）★囲碁、カラオケなど元気に過ごしております。（13 岡崎壮夫）★年相応に元気にしております。（14 曽根崎悦子）★県庁（兵庫）土木 OB 会とバッティングの為欠席させていただきます。（15 上島耕作）★幾つになっても同窓会ってワクワクします。何年か前、東雲会の幹事をした時も、若かった事もあり、とても楽しく準備したこと懐かしく思い出します。（15 日野郁子）★昨年腰の手術をして今年もリハビリ中です。丁度 11/15 の誕生日に合わせて娘達が旅行を企画してくれました。会報楽しみにしています。少ない人生頑張ります。（16 小谷保広）★「幻の大仏鉄道」開業 120 周年の年にあたり、イベント盛沢山で、ボランティアで楽しく元気で頑張っています。是非皆さんも大仏鉄道 120 年前の遺構巡りにお出かけ下さい。（17 長田富枝）★現役を続けておりますが、2 時間を超える通勤時間がきつくなり、週 4 日性にさせて頂きました。先日鳥取に帰った時、立川町のスシローで食事をしましたが沢山の人が待っていました。人の多さにびっくりしました。鳥取もすてたものではないと少し安心しました。（17 浜野純郎）★病後の為、まだ外出に自信がないので欠席させて頂きます。（17 和田節子）★元気だけがとりえの私でしたが、やはり 70 の坂はきついです。ヘルペスのウイルスが口内から神経に入り、2 年近く療養中です。皆さんも過信は禁物!（17 森史子）★11/17 はあいにく予定している旅行と重なってしまい参加できません。皆様、楽しいときをお過ごしになれますように…。（17 佐藤ひとみ）★同好会に所属し、囲碁を楽しんでいます。（17 吉船伸一）★仕事をマイペースに頑張っております。（18 井垣光子）★台風 21 号大変でしたね。

（18 盛田桂子）★京都府文化財構造物修理専門委員就任。来年秋、鳥取県立博物館「黄檗特別展」再来年秋、長崎県立歴史文化博物館「黄檗特別展」開催予定。（19 田中智誠）★山脈 19、今年こそ誰か来てくれ。（19 田中満男）★69 才になりましたがまだフルタイムで働いております。（19 中島正喜）★元気に宮仕えを続けています。（20 林成男）★来年はまた鳥取の仲間と出席する予定としていますのでよろしくお願いします。（20 川口勝）★今年、終活の大イベントにより亀岡市から京都市内に 25 年ぶりに帰ってきました。長女の近くの小さなマンションに転居しました。元気に過ごし思い出をいっぱいつくっていきましょう。（20 山根行憲）★'18 H30-2/14 で満 65 歳になり、定年退職となりました。以後年金生活を満喫しています。（22 田村耕三）★毎日難波に通勤しています。中国人韓国人の旅行者が溢れて道頓堀・心斎橋では日本語が聞こえない程です。その様な環境で毎日を過ごしています。希望は山仕事なのですが。（22 増田正）★退職 6 年目を迎え、健康のために週 2 回程度働いております。（22 横山勝寿）★退職後 5 年のうちに家族を次々と見送ることになり少々寂しいです。でもまだ介護の必要な義母がいますので頑張っているところです。（22 池本秀子）★仕事もまだ続けています。生活もお陰様で楽しく送らせて頂いています。感謝です。（22 池田洋子）★週 3 回非常勤勤務をし、休みの日は 11 月のハーフマラソンに向けて鍛錬しています。（22 西川尚子）★先の強い台風の被害に遭い大変でした。めげずに頑張っております。（23 但井満則）★来春で第二の職場も退職です(65 才)。いよいよサンデー毎日の生活か？いやいや元気なうちは働かなければ…。どうしようか迷っている今日この頃です。それにしても月日の経つのは早いもんですね。（23 津村明宏）★只今鳥取に単身赴任中です。いずれ神戸に戻るかな…？（23 横山毅）★間もなく何か楽しいことが待ってそうな 65 才。でもいつまで元気でいられるのか心配な 65 才。（23 佐竹利繁）★1 度参加したいと思っていますが、開催日がことごとく勤務日で困難です。鳥取に時々帰りますが、地元での交流が乏しくなりました。（24 坂川八郎）★6 月に初めての双子の孫が誕生しました。可愛くてたまりません。生きる元気の源です。孫の

成長を楽しみに日々を大切に生きていきたいと思う今日この頃です。（24 岸上真里）★母の介護を頑張っております。（25 組原克彦）★定年退職後 3 ヶ月が過ぎましたが今後をどう過ごしていこうかとまだ模索中です。（27 高橋ひとみ）★東京在住の為残念ながら参加出来ません。皆様に宜しくお伝え下さい。（27 西尾信也）★60 歳の誕生日を迎え、シニア料金で初めて観た映画が「終わった人」。新しい仕事に四苦八苦中。（28 湯村武）★いよいよ 3 月で退職します。沢山の方々に支えられてここまできました。これからは感謝の気持ちを少しずつ返していきたいと思っています。（28 宿院真由美）★同郷と知ると急に親近感がわくものですが、ましてや同窓とわかるとその瞬間から会話が昔話に弾みます。年なのかな〜。お世話になった先生方の若かりしお顔が浮かびます!!（29 田中雅子）★仙台に単身赴任中で当日は帰ってこれません。次回宜しくお願いします。（29 吉田千里）★この夏函館から道東を旅行し釧路に入った時、鳥取神社を見つけました。資料館に入ると懐かしい鳥取の香りで私の心は満たされました。驚いたことに東高時代の松尾茂先生が昭和 39 年に士族移住者関係資料を寄贈されているのを見つけ私の気持ちは昂ぶったままでした。昔、北の大地で御苦労された多くの先人達に感謝しつつ、惜しみながらそこをあとにしました。（29 中野智登世）★鳥取○×クイズは、毎年興味深い問題が出題され楽しんでおります。小学校での放課後英語教室も 5 年目をむかえます。元気な小学生と楽しく発見の多い日々を過ごしています。（30 佐藤洋子）★学童保育指導員の仕事を続けています。小学生からパワーを貰っています。家庭では昭和 4 年生まれの実母と夫の 3 人暮らしで、ヘルパーさんデイサービスの力も借りながら仲良く過ごしています。（30 田和道佳）★山 30 の同期とお会いしたくて今年こそはと楽しみにしておりましたが、家族行事と重なり大阪を離れます。（30 折中泰江）★今年幼稚園教諭 1 種の資格をとりました。年齢に関係なく色々なことにチャレンジしてみたいです。（30 宮﨑朋子）★現在、主人の仕事の関係でインドネシア・ジャカルタに居住しています（30 入江八寿恵）★妹に誘われ、初めて参加させて頂きます。クルージングも楽しみにしております。天候に恵まれますように!（31 江谷喜美子）★皆様に宜しくお伝え下さい。（32 松本俊寛）★前々年度幹事をさせて頂きました。仕事の都合上、どうしても休めません。申し訳ありません。（33 中島直子）★幹事、役員の皆様、企画、準備など有難うございます。盛会をお祈りしています。（33 伊達知子）★東雲会のお知らせ懐かしく頂きました。私は京都へ来て今年銀婚式を迎えました。現在は義母（要介護 3）の介護をしております。（35 吉田智子）★高校時代を懐かしく思う年になったと最近よく思います。息子 2 人が高校生になりました。（41 塚本真由美）

（イラストは山脈 12 回山崎勝彦氏の作品です）

学童集団疎開から 75 年

橋本　巖　山脈 10 回

今年は、学童集団疎開から 75 年になる。

疎開という言葉は、今では知る人が少なくなったが、忘れてはならない歴史的事実であり言葉でもある。

日本の敗戦が決定的だった 1944（昭和 19）年 6 月 30 日、政府は、米軍による本土空襲は必至とみて都市部学童を対象とした「学童疎開促進要綱」を決定した。目的は、防空活動の手足まといになる子どもを地方に送り、あわせて次の「皇軍兵士」を温存することにあった。学童の疎開は、単身による縁故疎開を原則とした。縁故先のない国民学校（1941 年 4 月から 1947 年 3 月までの小学校の呼称）初等科の 3〜6 年生は集団疎開とした。

宿舎は、旅館、集会所、寺院などが充てられ、1 人あたりの広さは畳 1 畳だった。学童は学業とともに勤労作業が義務づけられた。保護者の費用負担は、1 人月 10 円と高額だった。したがって、負担できない所帯の学童は放置された。肢体不自由児や伝染病罹患児は対象から外され、実際に集団疎開をした学童は、全国で約 41 万人に及んだ。（注 1、注 2）

鳥取県には神戸の学童がやって来た

1944（昭和 19）年 9 月、気高郡吉岡村（現鳥取市吉岡温泉町）の私の家の前にある寺に大勢の男の子がやって来た。私は当時 3 歳半だった。遊んでもらった記憶がかすかにあるが、正確なことを知ったのは数十年後のことだった。

鳥取県が受け入れたのは、神戸市の学童約 2500 名だった。そのうち県東部は約 900 名で、気高郡では吉岡村と正條村（現鳥取市気高町浜村地区）だった。吉岡村へ来たのは、神戸市名倉国民学校の児童 90 数名だった。（表 1）

疎開前の記念写真（名倉国民学校玄関で）

（注 3）

厳しかった疎開児の暮らし

1977（昭和 52）年 8 月、元疎開児 45 人が 32 年ぶりに吉岡温泉町へやってきた。疎開の地を懐かしんでのことだった。その際 2 人が持ってきた疎開当時の日記が翌年、手作りの冊子になって発行された。当時、日記は先生の検閲があったようだが、軍国少年の姿と同時にひもじさと父母恋しさが行間に溢れていた。私はある日の夕方、寺の石段に座った子が「お母ちゃ～ん」と叫んで泣いていたのを覚えている。母恋しさのため、脱走した子もいた。(注 4)

その冬はとりわけ大雪で、初めて見る雪にはしゃいだようだが、旅館にいた女子はともかく、外部とは障子一枚だった寺の本堂で起居した男子は、寒さに震えたことだろう。草履や裸足通学で凍傷になった子も少なくなかった。

お寺の廊下でサツマイモを食べている

(注 3)

表 1 郡別疎開学童数

	疎開児童数(人)	割合(%)	宿舎数
岩美郡	264	10.7	7
八頭郡	324	13.1	7
気高郡	308	12.5	8
東伯郡	1,304	52.8	42
西伯郡	270	10.9	11
鳥取県総計	2,470	100.0	75

(注 2)

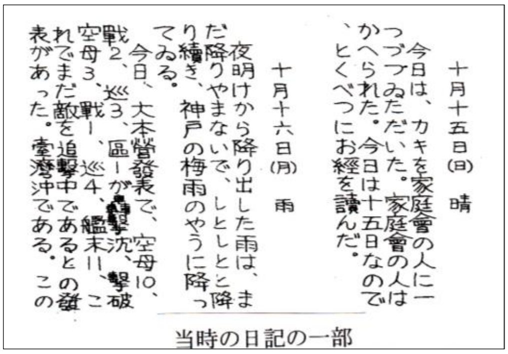
神戸へ帰る前の記念写真（吉岡国民学校の玄関で）

(注 3)

再び疎開児をつくってはいけない

5 年前、元疎開児 5 人を探し当て、神戸市立名倉小学校で懇談した。当時の想い出を沢山聞いたが、帰郷後の悲しい話が忘れられない。終戦の年の 3 月 7 日、彼らは卒業のため神戸へ帰った。待ち構えていたのは、3 月 17 日の神戸空襲だった。亡くなった子、孤児になった子もいた。1 人の子は、逃れた広島で被爆し、さらに長崎でも被爆したという。せっかく、戦火から逃れた命だったはずなのに…。

今、安倍自民党は、憲法 9 条を変えて日本を戦争が出来る国にしようとしている。再び、疎開児をつくるつもりなのだろうか。


十月十五日(日)　晴
今日は、カキを家庭會の人に一つづづゐただいた。家庭會の人はかへられた。今日は十五日なので、とくべつにお經を讀んだ。

十月十六日(月)　雨
夜明けから降り出した雨は、まだ降りやまないで、しとしとと降り續き、神戸の梅雨のやうに降ってゐる。
今日、大本營發表で、空母10、戰2、巡3、區1が撃沈、撃破、空母3、戰1、巡4、艦未11、これでまだ敵を追擊中であるとの發表があった。臺灣沖である。この

当時の日記の一部

(注 4)

(注 1)出典:『大阪春秋』2014 年春号・春風書房、『学童集団疎開史』逸見勝亮 1998 年 8 月・大月書店
(注 2)出典:『鳥取県への学童集団疎開』2014 年 10 月・鳥取県史ブックレット 15
(注 3)写真: 元疎開児・森口武彦氏提供、中川俊隆氏(当時の住職中川洞岳氏の孫)も所持
(注 4)出典:『集団疎開の記録』中川永就（中川洞岳氏の子息）編集 1978 年、日記原本は森口氏所持

同じ意味でもこんなに違う!鳥取弁おもしろ比較(その 2)

鳥取弁 ⇩	ほん子	きせり	めげる	やおい	たいぎい	つかあさい	ようこそ	どんどろけ	ごせい
関西弁 ⇩	ええ子	いらち	つぶれる	やらかい	じゃまくさい	おくれやす	おおきに	雷さん	おくれ
標準語	良い子	せっかち	こわれる	やわらかい	めんどくさい	下さい	ありがとう	雷	下さい

私の備忘録から　（その2）

心のふるさと

上口　敦弘　山脈14回

ふるさとの歌

＜「いつのことだか思い出してごらん」で始まる幼稚園の卒園式でよく歌われる歌は、懐かしさを誘い心に残る歌である。昭和56年にNHKの「みんなの歌」で放送されたが、東京の二人の園長さんの作詞作曲で、保育現場で生まれたとのこと、題名が「思い出のアルバム」と聞くとなるほどと頷ける。

また童謡は、皆に、それを歌った幼いころを、懐かしく思いださせてくれる。

「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川、夢は今も廻りて、忘れ難きふるさと」この歌碑が鳥取城跡の久松公園にある。

作詞は長野県豊田村の高野辰之、作曲は鳥取市の岡野貞一。二人は明治末期から大正初期にかけて、文部省唱歌の編集委員として「ふるさと」をはじめ「おぼろ月夜」「春の小川」「もみじ」など数多くの童謡を共作した。「ふるさと」の作曲者が、鳥取の人とは嬉しい。

年一回開催される「鳥取県ファンの集い」や「大阪鳥取県人会」「神戸鳥取県人会」などの集いの締めくくりは、いつも「ふるさと」の大合唱である。＞

わらべ館

＜この夏に帰鳥して、鳥取市内の「わらべ館」を訪れた。三階には2000点以上の世界の懐かしいおもちゃが勢ぞろい、二階には学んで遊べる遊具の部屋があり、一階は古民家や木造の教室が再現され、その懐かしい風景に触れながら唱歌・童謡から現代の子供の歌まで楽しむことができた。

また、夕刻に旧友と行ったスナックで、鳥取の歌は「貝殻節」と「鳥取砂丘」しかないと言っていたら、隣席のお客さんが「そんなことはないだけー、今日はこれを覚えて帰りんさい」と「鳥取恋歌」や「貝殻節考」を歌ってくれた。歌を通してふるさとに触れた楽しい一日、改めて「童謡・唱歌のふるさと鳥取」を回りの人に知らせたいと思った。

「わらべ館」は「より楽しく、より懐かしくなって生まれ変わる」をテーマにリニューアルを重ねている。孫たちと度々足を運び楽しみたいなと思っている。＞

心のふるさと

私の備忘録「感激ノート」をさらにめくると「心のふるさと」の一文がある。

＜「ふるさと」を新小辞林は「生まれた土地・幼いころ育った土地」とし、広辞苑は「かつて住んだことのある土地・なじみ深い土地」をこれに加えている。

大山山麓、日光村大坂で生まれ、小学2年から鳥取で育った。東京での学生生活の後、就職して名古屋・大阪・神戸・岐阜・尼崎などで勤務した。振り返ると、どの地にもそれぞれ懐かしい思い出がある。

「ふるさと」を「心のふるさと」と読み替えると、「心の中で大切にしてきたこと・心のよりどころ」などとその範疇が広がる。そうなると、身を置いた母校や職場の経験もまた、私の「ふるさと」である。確かに、それぞれの学校での恩師や学友とのふれあい、企業の先達から授かった教訓、仕事を通して培った価値観などは、いまも正しく「心のよりどころ」である。

生まれ育った「ふるさと」には辛くて悲しい思い出しかないと言う人がいるかもしれない。

しかし「心のふるさと」は誰にとっても「安らぎと元気の源」だと思う。気の合う人と、お互いの「心のふるさと」の話を交わしたいものである。＞

ふるさと探訪

「大阪鳥取県人会」では、毎年「郷土訪問日帰りバス旅行」を実施している。

振り返ってみると、平成26年「鳥取砂丘(砂の美術館)」と「わらべ館」、27年「大山ハム」と「とっとり花回廊」、28年「青山剛昌ふるさと館」と「倉吉線跡」、29年「大江ノ郷」と「北村きのこ園」、30年「大山周遊（大山寺）」と「サントリー水工場」など、時流に合った観光スポットを訪れてきた。

行く先々で、温かい「おもてなし」にふれ、「鳥取は、人よし、味よし、景色よし」を改めて体感できたと思っている。

元号も「令和」に変わり、時代の転換点をむかえて、今こそ「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ日本」であってほしい。

また、鳥取県でも「住民それぞれが望む生き方・働き方ができる地域づくり」が進み、「持てる観光資源の魅力が浸透して国内外の来訪者で賑わう」など、ふるさとに明るい未来が広がることを願っている。

かみぐち・あつひろ

1944年、伯耆町生まれ。鳥取東高、慶応義塾大（経）卒。三洋電機（株）採用部長・地区総務部長、園田学園女子大事務局長・学長補佐などを務める。現在 鳥取市観光大使、大阪・神戸鳥取県人会副会長。神戸市在住。

同窓生いきいき活動だより
ファッションデザイナー

黒川　洋子　山脈22回

［インタビュー: 田和道佳・大西紀子(山脈30回)］

3 月某日、大阪市中央区のビルの 1 階、黒川洋子さんのお店 EnNoir(アンノワール)を訪問しました。黒川さんといえば、京阪神東雲会の総会懇親会の景品にお店の商品を提供して下さっています。素敵だけれど気楽に着られそうな婦人服がいっぱい。ご自身の着られている服もお店の服もすべて黒川さんのデザイン。お店の奥に、黒川さんと 11 年前に他界されたご主人との 2 ショットの写真が飾ってあります。 インタビュー開始。

Q1. どのような営業形態ですか？

A1. この店は、元々得意先の店でした。ちょっとしたきっかけでこの店を引き継ぎましたが、なかなかうまくいかず、今から 1 年半前に「閉店セール」を 5 日間開催しました。するとお客様が大勢来て下さいました。ああ、こんなに来て下さるのなら閉店することはない！それ以来「笑顔になるセール」と称して、1 ヶ月に 5 日間のみオープンしています。

Q2. これまでの歩みはいかがでしたか？

A2. 実家は鳥取市猪子(いのこ)で、田舎の大家族でした。兄と弟がいます。母は教育ママに近い（？）。鳥取東高から大学に進学しましたが、ファッションデザイナーの夢絶ちがたく、1 年で中退、鳥取に帰り服飾専門学校に入学し直しました。その後、大阪で婦人服製造メーカーに就職し、企業デザイナーとして 6 年間、フリーランスとして 7 年間仕事をし、その後、婦人服メーカー『サンマイング』を起業しました。間もなく主人が事業に参画し、1991 年に『株式会社サンマイング』を設立しました。主人はマネージメント、営業統括を担当し、私はデザインに専念する事が出来ました。OMM ビルで年間 4 回展示会を開催し、売上は順調に伸び、スタッフも 14～15 人でやっていました。しかしその後、主人の他界や東北震災と多くの事を経験しました。ブティックは、1 年前よりスタッフ任せを止め、自らやる方法に切り替えました。1 ヶ月に 1 週間だけ店を開けています。1 ヶ月のうち 3 週間はもの作りに励んでいます。

Q3. 田舎の自然の中で育ったことが、どのように役立ちましたか。黒川さんのファッション哲学、及び、京阪神東雲会への結びつき・思いを教えて下さい。

A3. 田舎の自然に囲まれて育った事は自分の原点です。美しい空気、平和な家庭、家族の愛情、素朴な隣人。これらの事は自分の体の細胞の中に確実に宿っていると思います。一方、ファッションの原点はヨーロッパのものと考えています。毎年 2 回パリ、ミラノの 2 都市を訪れ、ファッションの為のブティックをはじめ、美術館、レストラン、建築物、人間を見て来た事は自分の感性を育て、自分の物づくりに大きく役立っています。このことを 30 年弱続けています。本場で本物を見て現地の人達と交流する事は人間をその水準まで引き上げてくれます。国を超えて、芸術、文化は西洋は東洋に、東洋は西洋にとお互いに影響を受けあい、また更に新しい芸術文化が生まれます。私自身長年ファッションデザイナーをやって来て大切にしている事は、カッティング、素材、縫製ですが、出来上った商品をエレガントに着こなして頂くレクチャーも私のブティック アンノワールでやっています。アンノワールを始めて、お客様達との交流で人の役に立つ事を深く考える様にもなりました。自分が参加しているコミュニティが 2 つあります。ひとつは FWN（女性経営者の異業種交流会）で 10 年くらい参加しています。役員も 3 年務めました。もうひとつが京阪神東雲会です。故郷に想いを馳せ高校の先輩方、同級生、後輩の方達との交流は無条件に心を開く事が出来ます。一年に一度行われる同窓会を楽しく有意義な会にする為に尽す事が出来ればと願っています。

くろかわ・ようこ

1989 年 サンマイングを創設。その後（株）サンマイング設立。 ノワール出店 雲雀丘花屋敷 7 年間。IFF に出展。大阪ファッション協同組合主催ファッションショーに出展。関西二期会のオペラ歌手の衣裳作成提供（NHK ホール・オペラコンサート衣裳）。JETRO 主催による上海イベントにファッションショー出展。東京支社 2 年半。2015 年 アンノワール出店 谷町 3 丁目。 現在に至る。

東京東雲会総会&懇親会

7月6日にいつもの東京法曹会館で開催された東京東雲会に参加をしました。CMプランナー浜崎 慎治さん（山脈46回）の講演「CM制作の現場から」。au 三太郎シリーズ等 CM ヒットメーカーの貴重なお話が聴けた。また懇親会では、渡邉絵理子さん（山脈 59 回）のピアノ演奏を始め、恒例の福引大会が開催されました。若い方々が司会など積極的に運営に参加され、初めての参加の方にはネームプレートに★印をつけて全体に紹介の場をつくるなど工夫が見られました。

（文･写真　岡田俊一　山脈12回）

鳥取のグルメ

●玉田屋のせんべい

懐かしの喫茶店を探せ!との広報の要望を受け「鍵」「小鹿」等探したが皆無。思い出の跡かたもなく街は変貌していた。折しも山陰と隠岐の両ジオパークを結ぶ、特別高速船モニターツアーに参加し賀露港から乗船したが、資料袋に入っていたのが玉田屋せんべいだった。これだ!鳥取を代表するグルメ、此処にあり。子供のころ集落に嫁入りがあると、玉田屋と書かれた一斗缶から「お祝い菓子」がふるまわれスカート広げて頂いた。あのウキウキ感。うねり形の生姜せんべい、ピーナツ入り定番など懐かしの味の数々。在ってよかった、玉田屋さん。ずっと、がんばってください!

なお、ツアーの主催は、鳥取港振興会でした。振興会会長は東雲会山脈22回の深沢市長です。

（文･写真　南部真知子　山脈22回）

平成 30 年度会計報告

（会費で総会案内と広報紙作成が維持されています。納入のご協力をお願いします。）

総会関係会計　（単位：円）

費　目	収 入	支 出	残 高	備 考
前年度繰越金	50,000			
総会会費	589,500			71件
年会費会計へ繰り出し		4,400		
総会支出		556,335		会場支払等
会議費		25,938		封入作業等
総会資料作成費		1,351		
連絡通信費		1,476		
合　計	639,500	589,500	50,000	

年会費会計　（単位：円）

費　目	収 入	支 出	残 高	備 考
前年度繰越金	294,432			
平成 30 年度年会費収入 (H30.4.1 ～ H31.3.31)	153,040			128件
総会当日入金分	57,000			57件
総会関係会計より繰入	4,400			
振込用紙印字サービス		502		
平成 30 年度総会案内送料		33,856		368通
出欠はがき代 @62×390		24,180		
データ管理費(金井氏へ)		100,000		
振込料		324		
総会案内会報印刷代		31,017		
運賃送料		2,880		
会報編集通信費		5,000		
本部総会出席費用		10,000		
野球部激励費		10,000		
合　計	508,872	217,759	291,113	

編集後記

お二人の寄稿と訪問インタビューに、鳥取グルメの現地取材や鳥取史跡スケッチ・スパイスの効いたカットが彩りを添えています。盛り沢山の内容に編集者は嬉しい悲鳴(？)をあげました。会報を読まれた皆様は、懐かしい故郷にタイムスリップされたことと思います。

最後に、22 号発行に際し、近況報告を掲載させて頂きました会員の皆様、文章･カット･写真のご寄稿及び取材にご協力下さいました、岡田様･中原様･山崎様･橋本様･上口様･黒川様･南部様に厚く御礼申し上げます。

なお、当会のホームページは、インターネットの「**京阪神東雲の窓**」で検索出来ますのでご覧下さい。

（おおにし・おかだ・やまべ）